

『つなげよう!歌のWA! in 横手』コンサート」事業

プロの音楽家とのジョイントコンサートを通じて町の活性化や町づくりの担い手育成を図るために結成された市民合唱団

地域づくりや町おこしにはさまざまな手法があるが、歌の力によってそれを行おうと企画されたのが横手市の「つなげよう!歌のWA! in 横手」コンサート事業である。市民公募により結成された合唱団がプロの音楽家とジョイントしたコンサートは、当日、足を運んだ市民ともども忘れがたい感動の1日となった。

町づくりの担い手育成や活性化の期待を込めて市民の公募によって結成された「歌のWA! 合唱団」

「つなげよう!歌のWA! in 横手」コンサート事業は、横手地域づくり協議会の委員提案事業として始まった。その委員の一人として、コンサートの実行委員会のメンバーも務めた小松郁美さんは、事業の経緯を以下のように語る。

「秋田県南に位置する横手市では、文化や芸術関連のプロを招聘するコンサートやイベントなどが少ないという現状がありました。市内には以前からアマチュア合唱団がいくつかあり、それぞれに活動していますが、高齢化が進んでメンバーが固定化しています。そうした現状を打破したいという思いがありました。また、市民が主体的に参加できる事業を企画・実行することを通して町づくりの担い手を育てたいという思いと、文化や芸術によって

心を満たされた市民が増えることで、より元気な横手にしていきたいという願いも込めて、今回の事業を地域づくり協議会で提案しました」

小松さんたちが企画したのは、プロの音楽家たちと一緒に歌う市民合唱団「歌のWA! 合唱団」を公募により結成し、合唱練習を経て、コンサートを開催するというものである。2011年7月～8月にかけて、大人40名(中学生以上)、子ども20名(幼稚園～小学生)を目途にメンバーの公募を行ったところ、幼稚園児から70代後半まで、69名の応募者があったという。「60～70代が中心で、やはりどこの市民合唱団でもそうなのですが、男性が10名と少なかった」と、小松さん。合唱練習が始まったのは、2011年10月。月2回のペースで、1回あたり2～3時間、市内在住の音楽家・照井咲枝さんが合唱の指導にあたった。

「12月と2012年4月には、練習後にメンバーの交流会も行われました。なごやかな雰囲気、これを機にメンバー間にいい関係性ができて、グループワークもうまくいくようになりました」と、小松さんは話す。

プロの音楽家とのジョイントコンサートで満員の観客の心に染みわたる親しみやすい曲の数々

「最初は声が出なかった人も、練習を重ねるうちに上達ぶりがすばしかった。とくに男性陣ががんばったことで、



当日のコンサートには、プロの音楽家と市民合唱団というジョイントの珍しさもあり、多数の観客が集まった



コンサートのチラシ



練習後に交流会なども行い、歌を通して、人との出会いや人と人がつながることの大切さを学ぶ機会となった

合唱全体に深まりが出てきました」と、練習風景を見守った小松さん。その成果を発表する場になったのが、2012年7月22日に横手市民会館で開かれた「歌のWA! コンサート」である。

1部では、「歌のWA! 合唱団」によって、「春の小川」、「夏は来ぬ」、「紅葉」、「雪」などの懐かしい唱歌で構成された「ふるさとの四季」と題するメドレーが披露された。2部は、途中で休憩をはさみ、「日本歌曲いまむかし」、「童謡いまむかし」という構成で、計21曲が5名のプロの音楽家によって歌われた。3部は「はやりうたをあつめて」というタイトルのもと、プロと「歌のWA! 合唱団」によるジョイント形式で計10曲が披露された。プロとのジョイントの練習はコンサート前日と当日の朝に行ったが、ピアノや舞台構成などもプロが手がけたことで、スムーズに行われたという。

「コンサート当日は、さすがに合唱団のメンバーも朝から緊張している様子でしたが、歌い終わってステージから

担当者より



県南では少ないプロと接する機会を実現!

歌のWA! in 横手 実行委員会
横手地域づくり協議会委員
小松郁美さん

当初は予算面を含め、実施が不安視されていましたが、AJOSCならびに秋田県遊技業協同組合から共同助成をいただいたことで、プロの音楽家を招聘し、無事、コンサートを行うことができました。市民のみなさんから、こうした企画を今後も続けてほしいという声もいただいているので、次につながるよう努力したいと思います。

降りてくるときには、みなさんが満足感を全身に漂わせていました。当日は予想を上回る658人の聴衆が詰めかけてくださいましたが、舞台と観客が一体となったコンサートだったと思います。プロのみなさんも、のってくださっているという感じでした」と、小松さん。NHK秋田放送局が男性メンバーにスポットを当てた取材を行い、コンサート直前に放送したことが集客効果につながったうえ、当日の様も取材、放送したという。コンサート後に観客に行ったアンケートでは、「とてもよかった」という評価が81%で、事業は大成功といえるだろう。また、「プロの音楽家による歌を聞くことができ、期待以上」、「合唱団の歌がすばしかった」、「感動的な時間を過ごすことができた」といった声が観客から多く寄せられたという。

「歌は特別な道具なども不要なため、市民も参加しやすかったのではないかと、小松さん。若い人たちがもっと参加できるものを企画してほしいという声も多かったことから、そうした声を取り込んで今後につなげていきたいと決意を語った。

秋田県遊技業協同組合から

横手市は合唱団の活動や子どもたちの吹奏楽が盛んな土地ですが、新たに結成された市民合唱団がプロとコンサートを行うということで助成させていただきました。「歌の町・横手」といわれるよう、今後の活動も期待しています。